

## 東耕地北遺跡 (ひがしこうちきたいせき)

所在地: つくばみらい市小張 5199-2 番地ほか

調査期間: 平成 30 年 4 月 1 日～9 月 30 日

調査面積: 5,100 m<sup>2</sup>

委託者: 茨城県土浦土木事務所

調査原因: 主要地方道野田牛久線バイパス事業

調査機関: 公益財団法人茨城県教育財団 (つくばみらい事務所)

Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

### 1 遺跡の概要

東耕地北遺跡は、つくばみらい市の中央部、西谷田川と小貝川の支流である中通川に挟まれた標高約 20m の台地上に立地しています。当遺跡周辺の縄文時代の遺跡としては、前期から晩期にかけての大規模集落跡である前田村遺跡をはじめ、前期の田村貝塚、後期の小張貝塚、早期から中期の土器片が出土した高野台遺跡、中期の貯蔵穴が確認された鎌田遺跡などがあり、当時、内海であった小貝川の低地を望む台地の縁辺部に遺跡が点在しています。



遺跡位置図 (国土地理院 5 万分の 1 「龍ヶ崎」)

### 2 調査の成果

今回の調査では、竪穴住居跡約 30 棟、土坑約 500 基などを確認し、縄文時代中期末葉から後期初頭 (約 4,000 年前) にかけて営まれた集落跡であることが分かりました。竪穴住居跡は、径 3～6 m の円形で、中央部には炉が設けられています。炉の形状は様々で、床と同じ高さのもの、床を掘りくぼめたもの、底を打ち欠いた土器が埋められたものなどが確認できました。また、土坑のなかには円筒形をしたものがあり、径 2 m、深さ 1.5 m の大形のものも見られ、貯蔵穴として使われたと考えられます。主な出土遺物は、煮炊きに用いられた縄文土器やドングリなどをすりつぶした磨石と石皿、土の掘削や木の伐採に使われた打製石斧と磨製石斧、動物や魚を捕るために使われた石の鎌や錘などです。また、ヤマトシジミの貝殻がまとまって出土しており、当時、集落の周辺に真水と海水とが入り混じる水域があったことが分かりました。



竪穴住居跡の発掘調査 (第 3 号竪穴住居跡)



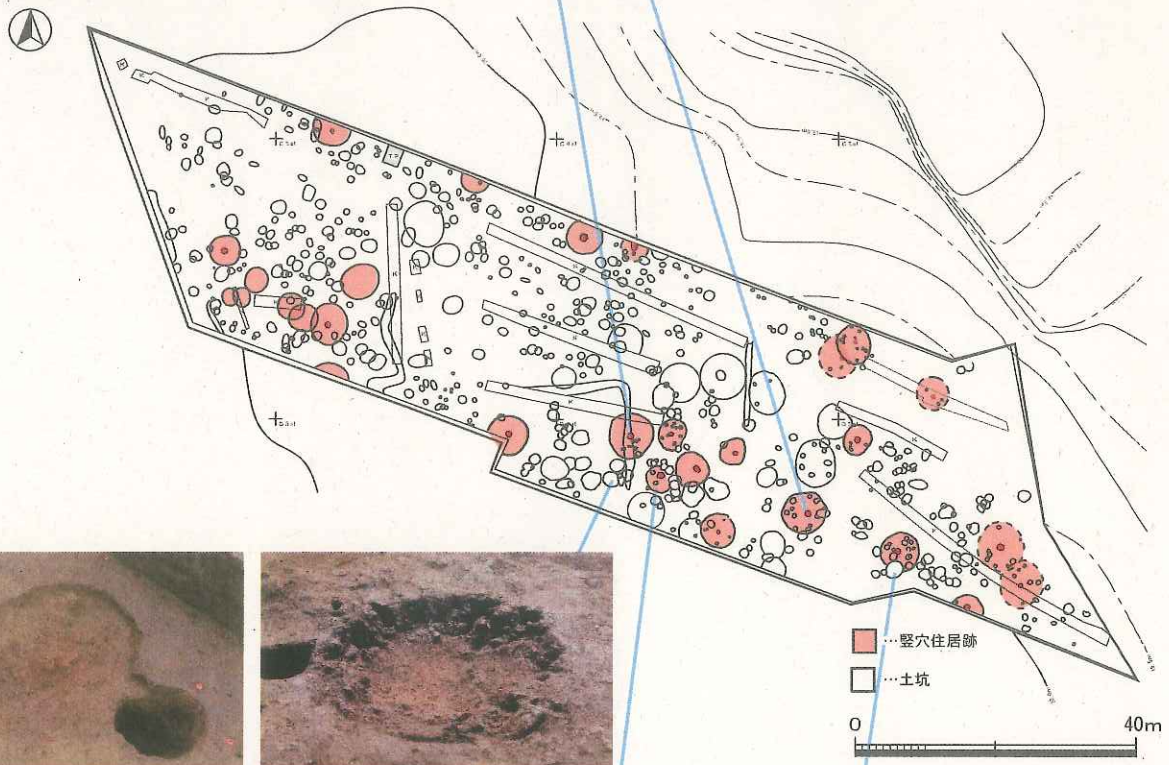
竪穴住居跡の発掘調査 (第 10 号竪穴住居跡)



竪穴住居跡に捨てられたヤマトシジミの貝殻  
(第24号竪穴住居跡)



縄文土器の検出作業 (第3号竪穴住居跡)



遺構全体図 (S=1/1000)



床と同じ高さで使用された炉



床を掘りくぼめて使用された炉



縄文土器の胴部片が埋められた炉  
様々な形状の炉



底を欠く縄文土器が埋められた炉



多量の縄文土器の破片が出土した土坑 (第211号土坑)



完全な形のまま埋められていた  
縄文土器の深鉢 (第145号土坑)



深さ1.5mの円筒形の土坑  
(第49号土坑)

この資料は、調査中の情報であり、  
最終的な結果ではございませんので、  
引用・掲載はご遠慮願います。